

蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 25 年 10 月 11 日(金)

第 21 号

発行人 校長 鈴木史良

前期を振り返って

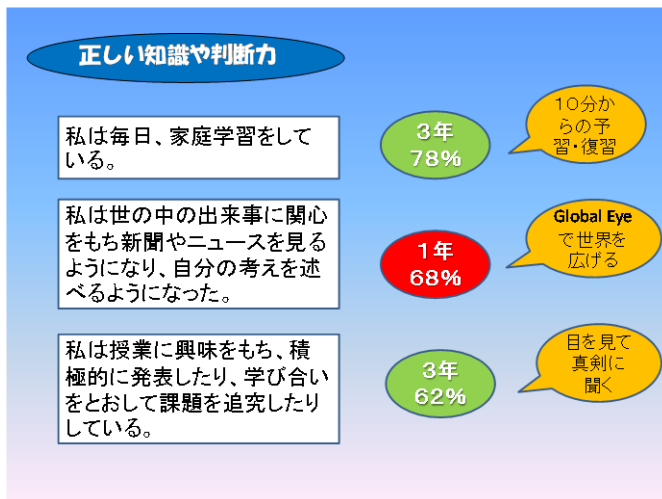
— 9つの評価指標の到達度はいかに? —

10月11日(金)をもって、25年度の前期日程が滞りなく終了いたしました。これも皆様の本校教育についてご理解、ご協力の賜と感謝いたしております。

『豊かな学びで世界に羽ばたく生徒— Stay Local Stay

Global—』を学校教育目標に掲げ、ねらいをもって日々の教育活動を進めている本校ですが、学校自己評価システムで得たデータをもとに第1ステージ(4月~7月)を振り返り、第2ステージに臨んでいます。終業式では、前期のあらわれをシンプルに生徒たちに示し、一人一人がかけがえのない存在であり、自分の可能性を伸ばすことができるよう以下の話をしました。

● 確かな学力保障のために



「正しい知識や判断力」を培うために、生徒たちに提示している評価指標は左図の3点です。

私は毎日家庭学習している、については3年生が最も高い数値を示しました。しかし、全体的には予習、復習に時間をかける生徒が少ないので、家庭学習の改善が必要です。

世の中の出来事に関心を持ち……、は中学生になって初めて Global Eye を始めたためか、1年生が最も高い

数値を示しました。もちろん2、3年生も実績は十分積み上げています。

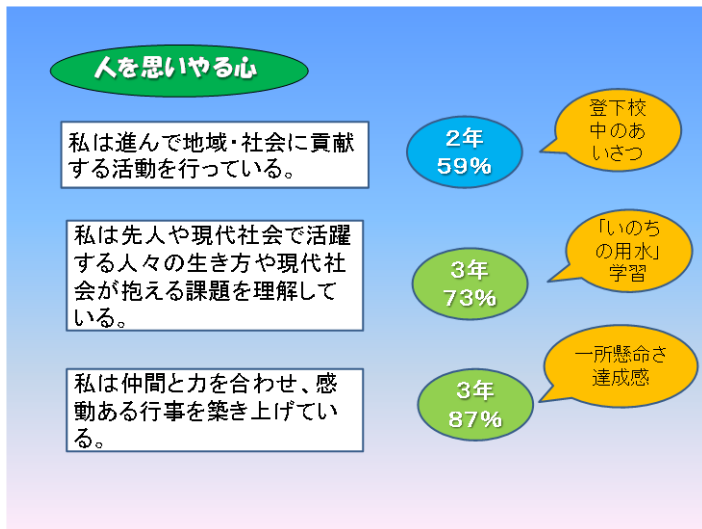
授業に興味をもち……、はさすが3年生、授業の大切さを理解しています。しかし、どの学年も数値的には低く、教師も授業研修を通して努力しています。

また、この学力に関する3項目で2年生は他学年の後塵を拝してしまいました。後期は生徒会など2年生が学校の主役になります。いっそうの奮起を期待します。

● 豊かな人間形成のために

「人を思いやる心」を育成するために、生徒たちに提示している評価指標は裏面図の3点です。

進んで社会・地域に貢献する活動……、では2年生がトップを占めました。6割以上の生徒が社会に貢献する活動を行っていることは素晴らしいですね。ボランティア的な作業でなくても、登下校中に地域の人々に気持ちのよい挨拶をすることで、地域に貢献できると思います。



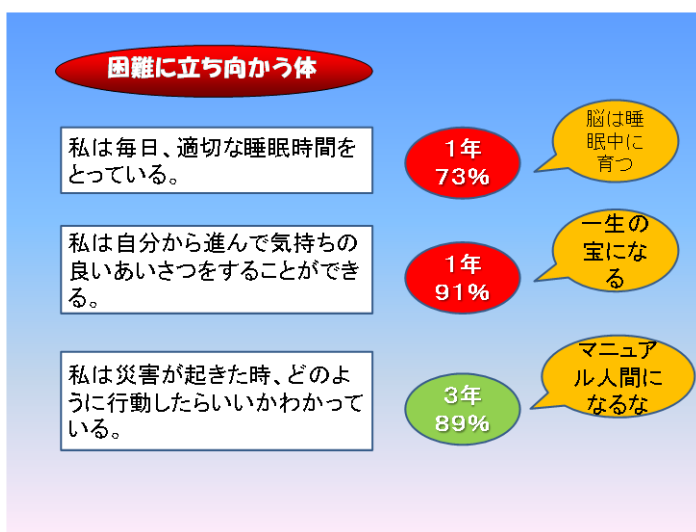
人々の生き方や社会が抱える課題……、については3年生がトップを占めました。中1の時に劇をスタートし、「いのちの用水」学習を3年間積み重ねた実績はさすがです。

仲間と力を合わせ、感動ある行事を……、も3年生がトップの数値を示しました。この仲間のできる行事は義務教育最終学年である今年が最後だから、という気持ちが9割近い高い数値に表れている

のだと思います。

● 健やかな心身支援のために

「困難に立ち向かう体」をつくるために、生徒たちに提示している評価指標は下図の3点です。



毎日、適切な睡眠時間をとっている……、は1年生がすばらしいですね。最新の脳科学の研究によると、睡眠は脳を浄化し、育てる働きがあるそうです。睡眠は脳の働きを伸ばすのです。

自分から進んで気持ちのよい挨拶ができる……、も1年生がトップです。元気な挨拶は相手にさわやかな印象を与えますね。

災害が起きた時どのように行動したらいいか……、は3年生が

高い数値を示しました。3・11以来、“自分の命は自分で守る”という言葉が定番となりました。マニュアル通りしか動けない人間から脱していきましょう。

新しい先生の紹介

美術の長谷川知洋講師がご自身のご都合により、前期終了をもって退職いたしました。後任として、後期からは塩川晴美講師が着任いたします。

美しい自然に恵まれた深良中学校に足を踏み入れたとき、とても清々しい気持ちになりました。その中で育った皆さんの感性から生まれる発想力や想像力と一緒に、美術を楽しみたいと思います。 (塩川先生より)

